

Montemor-o-velho

について



モンテモール・オ・ヴェーリョ

モンデゴ川（Rio Mondego）の豊穡な谷を見下ろすモンテモール・オ・ヴェーリョ（Montemor-o-velho）の村は、その通りのすみずみまで、また建築の細部ひとつひとつに町の長い歴史が反映され、足をとめてじっくり見るだけの価値を持っています。

この地域には古代ローマ時代から人が居住し、1147年にリスボン（Lisboa）とサンタレン（Santarém）がキリスト教徒の支配下に入るまで、モンテモール・オ・ヴェーリョはモンデゴ川沿いに続くポルトガルの南の国境を守る上で、戦略上大変重要な役割を担っていました。

その城は、モンデゴ川沿いでは最大の城塞であり、ポルトガル国内全体から見ても最大級のものとなっています。ムーア人からのレコンキスタ（国土回復運動）では幾多の戦いで大きな役割を果たし、ポルトガルの国家としての揺籃期には、モンデゴ川下流の居住地の要所となりました。

この他の印象的な建築物としては、ノッサ・セニョーラ・ドス・アンジョス修道院（Convento de Nossa Senhora dos Anjos）が挙げられます。また、身廊が1つのみのゴシック様式教会である、12世紀のサン・マルティニョ教会（Igreja de São Martinho）や、16世紀のミゼリコルディア教会（Igreja da Misericórdia）、ルネッサンス様式のサン・セバスティアン教会（Capela de São Sebastião）、16世紀のマヌエル様式のアンジョスの噴水（Fonte dos Anjos）などがあります。城壁からは、モンデゴ川流域に広がる野が一面に見渡すことができます。城壁の内側には、サント・アントニオ教会（Capela de Santo António）の遺構と、15世紀のサンタ・マリア・マダレーナ教会（Igreja de Santa Maria Madalena）があります。かつての姿をよりよくとどめているのが、サンタ・マリア・デ・アルカソバ教会（Igreja de Santa Maria de Alcáçova）です。教会には数々の変更が加えられ、マヌエル様式とルネッサンス様式両方の特徴が見られます。ことに、16、17世紀の祭壇後方の飾り壁にその影響が顕著に見られます。

この町の散策の締めくくりとして、この地の名物エスピーガス・ドセス（espigas doces）にまさるものはないでしょう。これは、モンテモール（Montemor）名物の小さな郷土菓子です。もしそれでも満足できないならば、この町で最も特徴的なレストラン、ラマリャオン（Ramalhão）をお薦めします。カルディラーダ（caldeirada）（魚のシチュー）やウナギの煮込み料理（ensopado de enguias）で有名な店です。

自然を愛する人には、パウル・ド・タイパル（Paúl do Taipal）をお薦めします。モンテモール・オ・ヴェーリョの城に隣り合って広がる特別自然保護区です。ことにバード・ウォッチングを楽しむには、きわめてすばらしい環境となっています。冬の数か月間には、このパウル・ド・タイパルには実に多種多様な鳥がやってきます。ここは8種類3000羽以上に及ぶカモの飛来地となり、またアオサギの営巣地ともなっています。